

第608回番組審議会報告

2016年5月10日開催

■出席委員

櫻井美幸委員長 佐藤友美子副委員長（書面意見） 小菅洋人委員 佐藤卓己委員
津村記久子委員 東野博昭委員 細見良行委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田取締役 西田取締役 西村取締役
竹田編成局長 亀井プロデューサー
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

◆審議事項

アニメ番組「昭和元禄落語心中」

2016年3月18日（金）26:50～27:20 放送 第11話

2016年3月25日（金）26:55～27:25 放送 第12話

について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 著名な落語のネタをしっかりと、しかもさらっとこなす声優の力量にびっくりした。深夜のアニメ文化を考えるいい材料を与えてもらった。
- * 落語のことを熟知している作者によるオリジナルの物語で、内容はもちろん、時間軸に沿うのではなく回想して語る、という切り口も上手い。
- * 古典としての落語とはまた違う、自分でアレンジした“アニメ落語”を演じるのは至難の技だが、声優が見事にやってのけている。
- * 制作者の本気度がよく伝わってくる、すばらしい作品。大人の視聴に堪える、あるいはちょっと青年が背伸びをできるようなアニメ文化をテレビがつくっていく必要があると思った。
- * 原作のマンガでは醸し出すことができない、色っぽい世界がうまく描けていた
- * 落語好き、昭和好きには堪らない、見ごたえのあるアニメだ。落語そのものも、また落語家の精神的な葛藤などもよく描かれており、楽しめた。

- *音響効果は極力おさえていたが、じっくり落語を聞かせる場面にBGMが入っていた。アニメ作品として、はたして必要なかどうか、考えさせられた。
- *ごく短い時間のなかで落語の面白さがちゃんと凝縮、表現されていることに感心したし、気の利いた含蓄のあるセリフもあって、アニメは進化していると思った。
- *落語にはすごく引き込まれた。アニメを見ている人たちを落語に導くということが期待できるのではないか。
- *時代背景を含め、細部まで丁寧に描きつつ、落語や落語家をどのように表現するのかという難題に挑戦していた。